



# 中央ウェイ

# 10月号

## 「受験生に送るエール」

主幹教諭 遠田 将人

夏休みが終わってから一か月が過ぎました。夏休みの努力の成果が表れたでしょうか。「受験は夏が勝負」「受験は夏が大事」などよく言いますが、長い休みの中で日本中の受験生が一生懸命勉強をしているので、成果を出すのはなかなか難しいものです。それでも諦めずに毎日コツコツ努力を続けましょう。

テーマは「受験生に送るエール」です。普通であれば12月の下旬に送るので、早すぎると思われるかもしれませんが、中央ろう学校6年の生徒は11月が勝負なのでこの場を借りてエールを送りたいと思います。エールと言えば自分が大学受験の頃を思い出します。私は1年浪人をして予備校に通っていたのですが、予備校の講師の先生方のエールはとてもユニークでした。30年前に流行った「あなたの夢を忘れないで」を熱唱する先生もいれば、ご自身の体験で試験当日40度の熱を出し意識が朦朧とした中で試験を受けた話をしていた先生もいました。様々なエールの中でも私の心に一番残っているのは、英語を担当して下さったK・T先生のエールです。

K・T先生は26年前、某大手予備校の人気英語講師でした。当時の年齢で50代前半、細い目に茶色い色眼鏡を掛けていて、外見はやや怖いといったところでした。正直のところはじめはこのK・T先生があまり好きではなかったのですが、100人規模の講義の中でT・K先生に学習態度を褒められたことをきっかけに好きになりました。授業中の口癖は「私も浪人して数学ができるようになった。だから君たちも英語ができるようになるはず。」「人生なんてものはね、挫折の繰り返しなんですよ。」でした。前者の口癖には違和感がありました。英語の講師なのになぜ数学なのだろうかと。後で知ったのですが、K・T先生は東京大学文学部卒だったそうです。そして後者の「人生は挫折の繰り返し」、この言葉は12月最後の講義に繋がりました。最後の講義の終わり10分前に、「実は私、妻を癌で亡くしているんです。それで一人娘を男手ひとつで育てています。歳は君たちと同じぐらいです。仕事でなかなかかまっていられなかったのですが、気付かない間に大人っぽくなっていました。」とK・T先生は突然言いました。一流大学を出て大手予備校の人気講師までになっても試練は思わぬ時に降りかかってくる。人生なんてものは試練が訪れるたびに地道に努力をしていくしかないと言いたかったのでしょうか。

文部科学省の学校基本調査によると、大学共通テスト（旧センター試験）の浪人生の志願者数は、1994年で19万2208人いましたが、2023年では7万1642人に減少したそうです。今の時代、「浪人」という言葉は死語に近いものになってきましたが、浪人時代のK・T先生のあのお言葉は受験のエールにとどまらず、今の私の心励みにもなっています。立場が逆になった今、受験生に送るエールとなるとなかなか良い言葉が浮かびませんが、受験を通して自分というものをよく知ってほしいと思います。受験というものは自分と向き合うこと、自分の好きどころや嫌いどころをありのまま受け入れることだと考えています。勉強が順調に進んでいる人、思うように進まない人、面接や小論・プレゼンが上手な人、思うようにいかない人、進路そのものがなかなか決まらない人などまちまちだと思いますし、結果として志望した大学に進学できる人や志望した大学に進学できない人もまちまちだと思います。ただそれが良いとか悪いとかではなく、今置かれている現状をしっかり受け止めて、地道に努力してほしいと思います。中央ろう学校の受験生の皆さん、最後まで頑張ってください。